

かがやく花々

平和の子ら

学校法人平和学園
平和学園小学校
2015年度 学校だより 第10号
〒253-0031
神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2
Phone 0467-87-1662/ 0131
Fax 0467-87-0411
サイト <http://www.aletheia.ac.jp/s/>

年間聖句 (2015年度)

子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。
ヨハネの手紙 一 3章18節

クリスマスを中心に

校長 橘 明子

平和学園のクリスマス礼拝は、皆様にあたたかく見守られながら大切な時間を過ごすことができました。イエスさまのお誕生の意味を、3年生が小さいながらもしっかりと伝えてくれました。クリスマスまでの間、一人ひとりが向き合い考えたことや私たちをいつも導いてくださる神さまに感謝して、日々の学校生活を過ごしていきたいと改めて思われました。

私は12月の冬の季節になると幼いころの事を思い出します。皆さんはいかがですか。クリスマスの時期に心の残る出来事がいくつかあるのではないのでしょうか。「クリスマスって・・・」と小さな子どもたちに聞くと「ケーキを食べる」「プレゼントをもらう」と自分の経験の中からお話をしてくれます。しかし、「クリスマスはね・・・」とイエスさまのお誕生のお話をするとみんなの顔が真剣になり、本当のクリスマスを理解しようとするのです。楽しいだけではない、嬉しいだけではないクリスマスだからこそ、小さな私たちに今できることを考えることが大切なのではないでしょうか。

私には全盲の姉がいます。生まれた時から目が見えません。目の見えない人には、耳で音を聞き分ける力があると聞いたことがあります。姉にもその力があると思った出来事があります。時々怒り出し、難しそうな顔をする時がありました。それは、姉のような障害を持った人を理解しようとしていない人が家に訪ねてくるとその足音でわかるようでした。

また、12月のクリスマスになると、大好きな叔母が必ずお菓子のいっぱい入った紙でできた靴をもってきてくれるのを楽しみに待っていました。目の見えない

姉には遠くのほうから歩いてくる叔母の足音がわかるようでした。心が弾み、笑顔になって、玄関の開く音が聞こえると笑いだします。そして、クリスマスの夜は、叔母と一緒に家族で静かなクリスマスの時を過ごしました。神さまは私たち一人ひとりに違った賜物をくださっていることを、姉を通して知ることができました。

私たちは命を与えられました。だからこそ、一人ひとりがかけがえのない存在であることをもう一度考えてみましょう。そして、学校生活の中でも様々な事柄に向き合ってきましたが、自分自身に向き合う中で、まだまだ足りないことがたくさんあると気付かれます。お互いの心の内側を理解し合い、ともに歩みたいと心から願います。

今学期も各学年の歩みが無事に終わりました。平和の子のみんなが自分の目標をもって、様々な事柄にチャレンジできたのではないのでしょうか。前に進んだかと思うと、足踏みをしてしまう。時には後ろに下がってしまう。子どもの成長とはそのようなものかもしれません。私たち大人は子どもの後ろから後押ししたり、子どもの前に立ち盾になったりしながら子育てをしています。しかし、大切なのは子どもの意思を尊重して盾になり、後押しをしたりすることですね。

長い長い二学期も今日で終わります。皆様のお支えに心より感謝申し上げます。明日からの冬休みが楽しく豊かな時間となりますよう、また皆様の健康と安全が守られますようお祈りしています。今学期もありがとうございました。